

「中長期整備実施河川の検討結果の説明会」において  
提出された質問・意見に対する考え方

会場	ご意見	県の考え方
彦根会場 10月5日	洪水等の警報は、自然は自然が発する。雨量計や流速計、水位計併設式などの導入の取組をしてもらいたい。	貴重なご意見として、参考とさせていただきます。
	幾度も重ねられて説明会が行われたと思う。	ご意見有難うございます。
	治水計画と共に環境への配慮がどのように扱われるのか？ まず、河川の息る生物との関係への配慮。 農業排水との関連を考えているのか？	今回の検討は、治水の観点で整備優先度を評価しています。環境・利水については、河川整備計画策定時や事業に取り組む段階において必ず地域の特性に十分配慮した検討を行うこととしております。
	全国的に河川の息る小動物が激減している。理由としては農業排水関係と思える。農業排水の直接河川への放流の阻止が重要と考える。	農業分野においては、農薬や肥料の使用量を少なくした「環境こだわり農業」や、代掻き時期の濁水対策やパトロール、田んぼに生き物のにぎわいを取り戻す「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに取り組んでおり、今後とも関係機関が連携して水域の環境保全に努めていきたいと考えています。
	氾濫防止のための河床の浚渫により砂利を取りのぞいた結果、粘質土の露出により河床が草木で密生するようになり、水の流れを悪くし、洪水時の氾濫を招いている。 抜本的な改修が必要です。	河川の現状の機能維持として浚渫等を行っております。河川内の竹木の繁茂や土砂の堆積などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから、順次実施しているところです。
	改修についてランク付けされ、目安がつけやすくなり、順序が気になるが、評価するところが多くあります。	ご意見有難うございます。
	Tランク LPデータ55河川出来ていますがその入手方法。	LP調査については、国において、全国一斉に測量調査をされたデータであり、それを管理を任されている都道府県に貸与されたものです。県独自に現地調査等を行い精度を高めたものとしています。
	堤内治水について、浸水家屋は堤内の小河川、放水路、水路、側溝に起因していることが大である。 再開発により、オープンだった小河川、放水路がカルパートにより埋設されキャパシティが定まり余裕がない。 市町と県が考えを変えていただきたい。	内水はん濫については、市街地開発が大きく影響していることから、県と市町が連携して水害に強いまちづくりに向けた対策を進めていきたいと考えています。
	堤内の早急な整備を市町村は対策せねばならないと思います。 残念ながら大河川の改修しか認識がない。	河川整備と連携した下水道(雨水)事業の展開が必要と考えています。
	芹川について、上流から琵琶湖迄を徹底的に現地調査し、対応策を検討し、その情報を流域住民に示して、何度も議論してほしい。	今後、具体的な事業の内容を検討するにあたっては、現地調査等を実施し進めます。また、対策の内容については、川づくり会議等において、住民の皆さんの意見を伺うことを考えています。
	はん濫が起きても犠牲者を出さない施策は基本的にあり得ない(新設河川であれば別)と思います。	水害については地震とは異なり、気象観測や洪水予測の精度が飛躍的に向上し、河川のはん濫をある程度事前に予測できる特徴があります。犠牲者を出さないために、円滑かつ確実な避難ができるよう施策などを進めていきたいと考えています。
	予算が無いと一口に言われるが、県全体の道路予算と河川予算との額は？人命、財産を最優先にするべき税金であれば、道路整備は遅れてもそれが原因で、人命、財産に影響するのか。一方河川は人命、財産を失う恐れが一番大きい。このことから、道路財源の1/2を河川に充当することが必要では、その議論の場を公開し、県民に示してほしい。	貴重なご意見として、参考とさせていただきます。 社会資本整備は、目的を十分吟味して効果的・効率的に進める必要があると考えています。

「中長期整備実施河川の検討結果の説明会」において  
提出された質問・意見に対する考え方

会場	ご意見	県の考え方
高島会場 10月5日	八田川に土砂が溜まりやすい。鉄砲水が出ないように山の管理にも眼を向けなければならないのではないか。川の管理(草木刈り・土砂のぞきなど)を強化する努力を願う。	河川内に繁茂した竹林の伐採や堆積土砂の除去などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから順次実施してまいりたいと考えております。
	八田川の改修は、人家に影響のない方法を考えてほしい。	改修工事前には地元へ十分な説明をさせていただきたいと考えています。
	予算がないとの説明では、住民の要望への明快な回答ではない。	厳しい財政事情を踏まえて、効率的・効果的な河川整備を進めるため優先度の検討を行いました。
	河床の砂の処理の具体的な処分の仕方を考えているのか？	河床の浚渫や改修工事で発生した土砂は、できる限り同じ工事現場内や他の工事(例えば道路工事やほ場整備の工事)で利用するようにしていますが、利用できずに余った土砂は処分することになります。しかし、土砂の処分地を見つけることが困難な場合も多いため、土地の高上げなど土砂の処分について、ご協力をお願いいたします。
	ランク河川以外の市内の小・中河川の整備について、県と市がどの様に打合せをし、管理しようとするのか？	一級河川の管理は国又は県で、それ以外の河川の管理は、基本は市です。ランク外であっても維持管理が必要なものや小規模な改修については、予算の範囲内で必要性・緊急性を判断して進めていきます。
	自然環境保全を高島の特色として売り出している。環境保全に対する考え方がわからない。災害が起こったら人災になる。責任重大。	今回の検討は治水の観点で整備優先度を評価しています。環境・利水については、河川整備計画策定時や事業に取り組む段階において必ず検討を行うこととしております。
	石田川改修について、完了区間も含め降雨時増水すると、上流から杉の木が流木として今津中学校付近まで流れつき、二次災害の危険が心配。早期に除去作業は出来ないか？	流木が橋脚などに引っかかっている場合は、河道の閉塞をまねくとともに、橋梁にも悪影響が及ぶおそれがあります。このため現地を確認し、危険な状況であれば早急に対応したいと考えています。
	上流部の樹木の管理と指導が流木が発生しない手当は出来ないか	所有者により対応いただくべきものと考えております。
	上流の堤防の手当を考慮できないか。	堤防の改築は、改修計画に基づき下流から順次進めて行きますが、未改修部の堤防については、河川パトロールなどによる巡視を行い、対策を必要とする箇所について、必要性、緊急性を判断して手当を行いたいと考えています。
	石田川の改修の見通しについて伺いたい。	県道今津マキノ線から上流3.2km区間を障害防止対策事業により改修工事を進めています。石田川の改修には、床止、取水樋門や橋梁などの構造物が多くあり、多額の費用を必要とします。このため、厳しい予算状況の中、大幅な進捗は図れませんが、少しでも石田川の改修が進むよう効率的な工事を進めたいと考えています。 なお、見通しについては、今回公表させていただいたものを踏まえ、河川整備計画で議論し、決めていくことと考えています。
上郷川などの中州の残土(堆積土)の早期除去についてお願いします。	堆積土砂の除去などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから順次実施してまいりたいと考えております。	

「中長期整備実施河川の検討結果の説明会」において  
提出された質問・意見に対する考え方

会場	ご意見	県の考え方
高島会場 10月5日	八田谷えん堤の土砂の除去(搬出)を願いたい。	この砂防ダムは、土石流対策(人命、財産等に有害な転籍等を含む土石流をくい止める)を主目的として設置したものであり、土石流は平常時堆砂勾配(現状の満砂状態)の上で捕捉する計画としているところです。したがって、現状において本来の目的を達成しているものであり、堰堤上流の土砂除去は不要であると判断しているところです。
	安曇川南流河口の中州の撤去 安曇川北流の旧北側橋からびわ湖の河口までの川の中にある大きな雑木の撤去 一度現地を視察して状況を確認し、早急に対応してください。	河川内に繁茂した竹林の伐採や堆積土砂の除去などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから順次実施してまいりたいと考えております。 なお、安曇川の中州の除去や樹木の撤去には、相当な工事費が予想されるため、治水上の影響の程度や実施方法等について十分に検討してまいりたいと考えております。
	安曇川河川敷内の雑木竹の伐採 安曇川南流・北流分岐点土砂の除去 安曇川南流河口土砂除去	河川内に繁茂した竹林の伐採や堆積土砂の除去などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから順次実施してまいりたいと考えております。 なお、安曇川の中州や分流部の土砂の除去や樹木の撤去には、相当な工事費が予想されるため、治水上の影響の程度や実施方法等について十分に検討してまいりたいと考えております。
	安曇川の整備は、河床掘削、堤防強化、河道拡幅、貯留池、かすみ堤などいずれも課題があり、十分な調査検討を行った上で、河川整備計画にして欲しい。また、各種検討されると思うが、最上流部でのダムが最善の策だと思います。	安曇川の整備計画の策定につきましては、今後「川づくり会議」等を開催し、地域住民の皆様の意見を聴いたうえで取りまとめてゆくこととしており、貴重なご意見として、参考にさせていただきます。
	安曇川は、湖流の関連で過去から河口が南へ南へと移動すると共に水流も南へ引かれる力が強い。(長期の歴史がある)併せて 分流地点で南流の河床が低い。北流分岐口に土砂が蓄積し高くなる。北流の高水敷きには密集した竹林が連続している。河床内に雑木、つるよしが繁茂している等より、洪水時の流下能力のバランスが崩れている(崩れる)と考えられる。過去に計画のあった分流堰を作る必要と、長尾地区より河口まで全域の竹林、雑草、木の整備が必要。	分流点の河床変動については、今後とも経過観測を行うとともに必要に応じて河床整正及び既存帯工の補修、並びに流水を阻害する竹木の伐採を計画的に進めたいと考えています。 なお、安曇川の分流計画は、過去の検討資料を確認しましたところ、南流と北流との分岐点で分流工(導流堤)により分派させることになっています。 河川内に繁茂した竹林の伐採などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから順次実施してまいりたいと考えています。 なお、安曇川の樹木の撤去には、相当な工事費が予想されるため、治水上の影響の程度や実施方法等について十分に検討してまいりたいと考えております。 また、現在地元で実施されている竹林の伐採・整備等については、微力ながら引き続き支援してまいりたいと考えておりますので、今後とも継続的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

「中長期整備実施河川の検討結果の説明会」において  
提出された質問・意見に対する考え方

会場	ご意見	県の考え方
<p>高島会場 10月5日</p>	<p>安曇川の南流河口は、30～40年前と比較すると、100m～200mもびわ湖に出たと思う。短い年月の間に雑木、竹藪、雑草が生い茂り、このまま放置すれば、今後10～20年の間に大密林になると予想され、洪水時には、別記した崩れた流下バランスにより、過大な水流(過大でなくとも)が密林でせき止められあふれる事となる。併せて、南船木・北船木地区の堤防決壊が懸念されます。又、北船木上流部(四の坪)の堤防が決壊すれば、240戸の集落は壊滅すると、区民の間では不安感が広がっており、早急な整備を願う。</p>	<p>河川内に繁茂した竹林の伐採などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから順次実施してまいりたいと考えております。 なお、安曇川の樹木の撤去には、相当な工事費が予想されるため、治水上の影響の程度や実施方法等について十分に検討してまいりたいと考えております。</p>
	<p>過去には安曇川の豊富な湧水が住宅地の周辺を流れる小川(新堀川、古川)に流れ込み、生活用水や防火用水に使われていたが、河川改修以後安曇川北流の河床が低下し、船木地区(輪の内)の湧水は、洪水といわれる大洪水時以外は完全に枯渇してしまいました。この小川の用水対策として、北船木漁協の協力で、北流ヤナの鮎畜養池の用水をくみ上げ、小川に通水していたのですが、10年前にこの池の水も湧かなくなって、分流地点に近い田用水用の大きく深い池(西田用水池)より揚水して、小川に年間を通して通水されています。ところが、この深い池も、近年、夏季の安曇川の渇水時には、湧かなくなって、住民の不安は計り知れないものがあります。又、近年は高齢者が多くなり、準限界集落となってきた。区行政の電力量負担も厳しいものとなり、何時まで続けられるか知れないのが現実です。</p> <p>南北流のヤナがあり、この付近の河床は安定していますが、漁業不振と後継者不足で、ヤナが何時まで有るか分かりません。無くなれば、益々河床は低下します。尚、北船木は南北流の安曇川に囲まれた地区で、上流部よりの流水が全くない県内でもめづらしい「特殊な地区」ゆえに、河床低下による湧水の枯渇は甚大な悪影響を与えています。これ等の事より、河床低下対策として、新旭町太田地区等を流れる小川(太田川等)の流水を、安曇川北流の河床低下を通して、北船木輪の内地区へ流入させていただきたいと区民が切望されています。現状と将来を考慮して河川整備計画に導入していただきたいと考えています。</p>	<p>安曇川の整備計画の策定につきましては、今後「川づくり会議」等を開催し、地域住民の皆様の意見を聴いたうえで取りまとめゆくこととしており、貴重なご意見として、参考にさせていただきます。</p>
	<p>高島市のハザードマップ(現在は地震用と兼用)によると、洪水時の避難場所は、南船木、北船木地区とも、5～7km離れた上流部の安曇川公民館となっていますが、高齢者の多い当地区住民は、若者を含め遠方ゆえに自動車での避難すると思えます。ところが、公民館は他地区の避難場所にも指定されており、駐車場の収容台数から考えて、車が収容できず、避難途中の道路上で動けなくなることは明白であり、水没することにもなります。北船木地区では、防災学習会や地区役員の話し合いで、過去の経験も含めて、安曇川堤防河道面の反対面に堤防補強を兼ねて土砂を道路面の高さまで積み上げ、洪水時の土のう作成や区民の避難場所にしようと考えています。(要請します)</p> <p>河川工事で搬出する土砂を利用すれば、一石二鳥の案と思うので各河川に適用して、河川整備計画に反映していただけたらと考えます。</p>	<p>車での避難は、途中で水没し外に出られなくなるなどの危険性がありますので、できるだけ徒歩で避難するように心がけることが重要です。 堤防を避難所に活用する提案については、今後高島市とも相談しながら検討していきたいと考えています。</p>